学校連携モデル研究事業 2020 〜新型コロナウィルス感染拡大防止対策を踏まえて〜

大城久表1)

School collaboration model research project 2020

Hisato OSHIRO¹⁾

はじめに

沖縄県立博物館・美術館では、県民の自己啓発や 学習を発表する場の提供、また博物館資料を活用し た学習支援活動を目的として、ボランティア員の導 入による学習プログラムの推進や、博物館学芸員の 学校招聘による出前授業等を行っている。これらの 活動は多様化する来館者のニーズに対し、よりきめ 細かなサービスへの寄与と自己学習の場となること を目指している。

また、当館教育普及はその活動において博物館班 の学芸員・及び指定管理者と協働して教育普及活動 を展開している。しかし学校連携モデル研究事業4 年目にあたる令和2年度は新型コロナウィルス感染 拡大の影響を受けて各学校における校内外の諸行事 が延期、または中止、当館においても4月から5月 にかけて臨時休館となり企画展の延期または中止が 相次いで発表された。それに伴い、博物館班ボラン ティア活動も休止となり、感染症対策の為、これま でとは異なる形での活動を余儀なくされた。「密」 な環境になりやすい「学校連携モデル事業」におい て、「教育・普及」の在り方を模索しながら、博物 館班の学芸員、及び指定管理者と連絡・調整をとり ながら4年目における予定している事業に取り組ん だ。『博物館における新型コロナウィルス感染症拡 大予防ガイドライン』が示され、入館時のマスクの 着用・手指消毒・体温検査等の一般的な対策の他、 対人距離確保 (ソーシャルディスタンス) のため必要 に応じて入館制限を行うこと等感染症対策を踏まえ、 それを受けて学校連携モデル校や県内各学校と連携

し、内容を一部変更して学習プログラムを行った。 ここでは、今年度、新型コロナウィルス感染拡大 防止対策を踏まえて行った本事業の取り組みを紹介 したい。

1 本事業4年目における取り組みについて

事業取り組みの4年目に当たる令和2年度は新型コロナウィルス感染拡大の影響を受けて、これまでとは異なる形での普及活動を余儀なくされた。新型コロナウィルス感染拡大防止対策を踏まえて事業内容を一部変更し、学校連携モデル校及び県内各学校における学習プログラムの取り組みを行った、またコロナ禍を契機とした「教育・普及」の在り方を模索する中で、連携校以外においても安全対策を踏まえた様々な取り組みを行った。

(1) 博物館に係る受入要項の配布について

2020年度(令和2年度)新型コロナウィルス感染拡大の為、博物館の休館が4~5月と続き学校現場も県の緊急事態宣言により休校となった。博物館でもコロナ禍における「教育・普及」の在り方を模索する中、休館期間を得て、学校再開後の活動を見越し、学校連携校他、全県の小学校に博物館施設利用・学校団体受入・民具体験学習における呼びかけ(令和2年度沖縄県立博物館・美術館 博物館に係る受入要項の配布について)を行った。そうした状況の中、休館中に示された「博物館における新型コロナウィルス感染症拡大予防ガイドライン」が示され、それを受けた安全対策を講じた取り組みを検討・協議した。

¹⁾ 沖縄県立博物館・美術館 〒 900-0006 沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1 Okinawa Prefectural Museum & Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa, 900-0006 Japan

令和2年度 沖縄県立博物館・美術館 博物館に係る 受入要項の配布

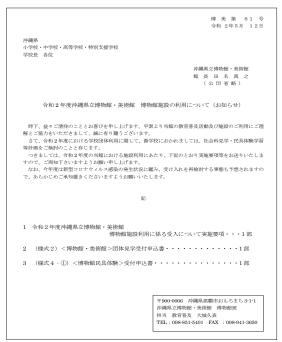


図 1-(1)

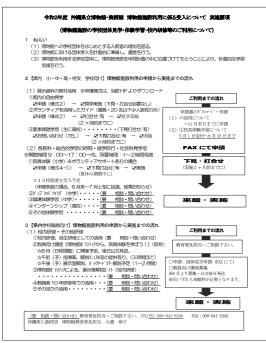


図 1-(2)

(2) 連携校において

連携校実践1:那覇市立天久小学校

ボランティアによる展示解説及び当館資料を 利した調べ学習の実践。

新型コロナウィルス感染拡大防止策を踏まえて7 月に学校訪問を行い学習プログラムの内容確認と児

童の安全対策の事前打ち合わせを行った。「キッズ ガイド養成」に取り組む天久小学校では、総合的な 学習の時間を年間計画に位置付けている。7月に総 合展示見学を行い、2月に博物館にてキッズガイド を行う計画になっている。今回、博物館では感染防 止対策として「密にならない」ようにボランティア 解説ガイドの人数を3倍に増やし常設展示各部門を ソーシャルディスタンスを保ち、観覧・見学が出来 るようにした。また、ボランティアにおいてもフェ イスガードやマスクを着用する等安全対策をとり、 教師・児童も全員マスク着用で感染防止対策に取り 組んだ。児童の人数も6~7名の少人数グループで 行い児童のオリエンテーションを博物館の雨端で実 施した。学校側でも博物館マナー学習の事前指導と ともに来館時のソーシャルディスタンスの確保等 「密」な環境になりやすい状況において重点的な感 染症対策を行ってもらい、学習プログラムに取り組 むことができた。

2月に「キッズガイド」を博物館常設展示室で行う予定であるが、12月現在では、新型コロナ感染状況が厳しく、7月に学習した博物館の常設展示品を解説する発表の場を学校側で実施予定しているとの話である。総合的な学習の時間は、児童の「自主性」を育成する科目であり、限られた条件の中でも郷土理解を深めることができると考えられる。博物館においても展示等で取り組みを紹介できる場を検討していきたい。

写真は当館総合展示室にて。感染防止対策をとり ながら学習プログラムを実施した様子。



雨端でオリエンテー ションを実施

少人数グループで実施





ボランティア解説ガ イドを増やして実施







連携校実践2:那覇市立城南小学校他

学芸員・職員による当館資料を利用した 「学校対応民具体験学習プログラム」の実施

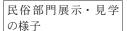
新型コロナウィルス感染拡大の中、「学校対応民 具体験学習プログラム」の実施において、ボラン ティア休止による民具体験サポートが出来ない状況 の中で、実施方法を一部変更する形で11月から実 施した。「学校対応民具体験学習プログラム」は本 来、児童がボランティアサポートを受けて民具の着 衣体験や民族部門の解説ガイドを受ける体験学習で ある。しかし、7月より新型コロナウィルス感染症 防止対策としてふれあい系の体験活動は休止、民具 体験においても不特定多数の児童が民具に触れるこ とができなくなった。そこで、博物館班の職員及び 学芸員、指定管理者と連絡・調整をとりながら、は じめて、職員と指定管理者主体で行う民具解説・実 演を実施した。予定していた各小学校においては、

児童に民具体験を見学してもらう形をとり、「民具 体験学習プログラム」を行った。校外学習や諸行事 がやむなく中止になる厳しい状況があることを小学 校職員より伺っていた。そのような中、「民具体験 学習プログラム」における、今年度の数少ない学校 行事に取り組めたことは、「学びの保障」を後押し する一助となった。手指衛生等の一般的な対策のほ か、ソーシャルディスタンスを保ちながら民俗分野 に関する学習を提供でき、後日、学校連携モデル校 の城南小学校より「お礼の手紙」を頂き児童の喜び の声を聞くことが出来た。新型コロナウィルス感染 拡大を受けて数校キャンセルがあったが、令和2年 度、学校団体民具体験学習受け入れにおいて15校 実施することができた。11月に行った松島小の学 習プログラム後にも「お礼のポスター」が届けられ た。多くの制約がなされる状況下において、博物館 職員及び学校が力を合わせて児童の成長を支える重 要な取り組みが行えた。

【那覇市立城南小学校の体験取組み】



職員の民具解説・実 演の様子







職員の民具解説・実 演の様子



職員の民具解説にお ける児童質問様子

自然史部門展示・見 学の様子





松島小 「お礼のポスター」



令和2年度学校団体民具体験学習受入表15校

活動日	参加校	参加人数	
10月23日 (金)	中城小	38名	
11月6日(金)	城南小	71名	
11月12日 (木)	松島小	86名	
11月13日 (金)	とよみ小	102名	
11月17日 (火)	新城小	40名	
	高嶺小	55名	
11月26日 (木)	那覇小	72名	
12月2日 (水)	天妃小	72名	
12月4日(金)	座安小	87名	
12月17日 (火)	曙小	51名	
1月14日 (木)	若狭小	72名	
1月22日(金)	中城南小	147名	
1月27日 (水)	内間小*	103名	
2月5日(金)	銘苅小*	108名	
2月12日(金)	安謝小	98名	
総計		1089名	

*内間小と銘苅小は体験学習ではなく民具貸出

(3) 離島校学校団体受入について

少人数・離島校においてボランティアによる展示 解説ガイドを行っている離島校団受入について、新 型コロナウィルス感染拡大防止の為、8月より博物 館ボランティアの活動が安全対策を考慮して休止と している。そのような状況の中、離島校学校団体受 入の要望があった。修学旅行は、学習指導要領上、 特別活動の中の学校行事に位置付けられている為、 班会議等で検討し特例措置として10月から少人数・ 離島校に限りボランティア解説付きの学校団体受入 を行うこととなった。安全対策を考慮して2~3名 のボランティア展示解説ガイドで行う計画をし実施 した。また、事前学習指導として、学校側でも来館 前にソーシャルディスタンスを確保する為、児童を 5~6名の少人数グループに分け行動できるように した。「密」な環境になりやすい状況において重点 的な感染症対策を行えた。

離島校学校団体受入(常設展示ガイド希望)

,			
活動日	参加校	参加人数	
10月16日(金)	久米島村立	5名	
(常設展・岩石展)	阿波連小	ボランティア2名	
10月22日(木)	久米島町立	27名	
(常設展)	仲里小	ボランティア2名	
10月16日(金)	カトリック学園	24名	
(常設展・岩石展)	海星小	ボランティア3名	
総計		56名	

(4) 出前授業について

「出前授業」については、9月まで休止で10月より実施となった。11,12,1月と1校ずつ高等学校から依頼があり、安全対策をとりながら人類、生物、美術工芸の各分野学芸員が専門性を生かした出前授業を実施することができた。連携校である離島校での出前授業は、新型コロナウィルス感染状況を踏まえると実施が困難な状況であった。そのような中で11~1月にかけて出前授業を実施できたのは本島内の各高校であった。学芸員は、出前授業において安全対策を図る等、事前に高校側担当教師と連絡調整を行った。対人距離を保ちながら授業を実践するなど新型コロナウィルス感染症予防対策に努めて出前授業を実施することができた。

実践1 沖縄県立向陽高等学校出前授業

学習内容:「人類学地理歴史港川人公民科巡検事

前学習会·地理歴史」人類担当学芸員

日時: 令和2年11月13日(金)5・6校時

(1学年全員 240名)

【向陽高校出前授業の様子】



安全対策をとり出前 授業を実施







実践2 沖縄県立中部農林高等学校出前授業

学習内容:「理科 生物基礎 第5章 生態系と その保全・生物学」生物担当学芸員

- (1) 生物を中心とした実物標本に触れることで 観察眼を養い生物に関する興味関心を高める。
- (2) 生物進化から見た琉球弧の特徴について、自分なりの考えを述べることができる。
- (3) 生物の特徴を捉えて分類することができる。 日時:令和2年12月22日(火)17:40~19:15 (対象学年:2学年全員 30名)

【中部農林高校出前授業の様子】

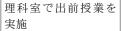


資料を活用した解説 の様子





教 材 を 活 用 し た グ ループ活動の様子





実践3 沖縄県立知念高等学校出前授業

学習内容:「美術 I における鑑賞の授業・美術工芸」

美術工芸担当学芸員

日時:令和3年1月6・7・12日(3日間) (1学年美術クラス 90名)

(5) 教育委員会との連携

本事業はこれまで県外研修を実施していた宜野座 村教育委員会が新型コロナウィルス感染拡大の影響 を受け今年度、県内研修を実施することとなり、文 化財保護施設である当博物館を、研修の場としたい との依頼が11月にあった。研修対象者は「がらま ん大賞」各部門における大賞を受賞した小、中、高 校生の児童・生徒である。これは、見識を深め、今 後の芸術活動に寄与することを目的とした社会体験 研修である。宜野座村教育委員会の担当職員、博物 館班及び美術館班教育普及、学芸員とで、事前打ち合わせを行い、学習プログラムを作成12月20日(日)に博物館・美術館の収蔵庫と常設展示を学芸員が解説案内するバックヤードツアーとミュージアムツアーを行った。コロナ禍の中、安全対策をとりながら博物館と美術館が連携し対応することができた。「教育普及」では、今後も新型コロナウィルスの影響を受け、修学旅行や社会体験等県内に変更して行う場合の、受け入れ先として博物館にもっと興味をもってもらえる取り組みを行っていきたい。

実施内容・令和2年度第23回宜野座村教育委員会

主催「がらまん大賞」に係る社会体験研修 日時:12月20日(日)12:30~14:30

対象学年:小・中・高 引率他 計7名

【「がらまん大賞」社会体験研修の様子】



収蔵庫でバックヤ ドツアーを実施





民俗部門展示室で展 示解説を実施

収蔵庫で修復作業方 法の解説を実施





資料を活用した解説 を実施

成果

新型コロナウィルス感染拡大は、学校連携事業の 運営に大きな影響を与えた。教育普及活動において コロナ禍における「教育・普及」の在り方を模索す る中、『博物館における新型コロナウィルス感染拡 大予防ガイドライン』の方針を基に学校側と連携し 可能な範囲で学習プログラムの取り組みを実施する ことができた。学校現場において、諸行事の中止が 相次ぐ中で、博物館に来館し、校外学習(民具体験 学習プログラム)を行えることはコロナ禍における 児童の楽しみとなった。「学校対応民具体験学習プ ログラム」に取り組む連携校の城南小学校において は、ボランティアサポート・ふれあい系の体験活動 が休止の中、職員と指定管理者主体で行う民具解説・ 実演をはじめて実施した。多くの制約がなされる状 況下において、博物館職員及び学校が力を合わせて 「民具体験学習プログラム」に取り組めたことは、「学 びの保障」を後押しする一助となった。

出前授業においても安全対策をとりながら人類、 生物、美術工芸の各分野学芸員が専門性を生かした 出前授業を実施することができた。

また、今回はじめて宜野座村教育委員会主催の社会体験研修受け入れを行った。今後も新型コロナウィルスの影響を受け、実施場所変更となった場合の受け入れ先として、博物館に興味・関心をもってもらえる取り組みを行っていきたい。

課題

連携校実践において予定していた県内中学校でのボランティア活動の中止希望が相次いだ。次年度は、学校側と連絡調整を取りながら県内中学校の生徒が活動できる場を提供していきたい。

また、今後もボランティア活動休止による民具体 験サポートができない状況が予想される中、感染症 対策を踏まえた児童に提供する学習プログラムの一環に民族部門の民話上映会を組み入れて、さらなる学習効果を高め、県立博物館のもつ施設・物・情報を効果的に活用したい。また、学校側からオンラインコンテンツ(動画資料)の要望があった。今後は民族部門における民具解説や民具着衣の内容など、博物館に来館しなくても提供可能な情報をオンラインで利用できるコンテンツの拡充を視野に入れ検討していきたい。

おわりに

学校連携モデル研究事業の事業目的は、博物館の 教育普及活動としては「小学校民具体験」「展示解 説ガイド」等の教育普及活動を展開し、平成29年 度から令和2年度にかけて取り組んでいる。「学校 連携モデル研究事業」4年目の令和2年度は、新型 コロナウィルス感染拡大の影響を大きく受けた。安 全対策を第一に考えた教育・普及の在り方を模索し、 一部内容を変更した学習プログラムを行った。民具 体験学習プログラムにおいては、博物館・美術館の 職員及び学芸員・指定管理者、館全体で取り組むこ とができた。学校行事が相次いで中止される中、博 物館に来館することが出来た児童・生徒は校外行事 を自主的・主体的に取り組んでいた。今後も一定期 間は新型コロナウィルスとともに社会で生きていか なければならないことが見込まれている。多くの制 約がなされる状況下において、様々な工夫を凝らし た教育・普及活動に取り組み、子どもたちの「学び の保障」の一助となるよう努めたい。

結びに、本事業を実施するにあたり、協力を頂い た関係者の皆様に小より感謝申し上げます。

下記の各館・各学校のご協力に感謝申し上げます。 (順不同)

- ·那覇市立天久小学校
- · 那覇市立城南小学校 (他民具体験参加各小学校)
- · 沖縄県立向陽高等学校
- · 沖縄県立中部農林高等学校
- · 沖縄県立知念高等学校
- · 宜野座村教育委員会